

## 双胎妊娠について

### ○どんな病態？

双胎妊娠とは双子のことです。双胎妊娠は2004年の統計では80-90妊娠に1回の割合で、自然妊娠では150-160妊娠に1回（0.6-0.7%）と言われています。

当院では、経過が安定していれば管理入院は行わずに分娩まで外来通院が可能です。

しかし、早産など合併症がみられた場合は入院となることがあります。

分娩方針については条件を満たせば経膣分娩も可能です。詳しい条件は当院ホームページの「双胎経膣分娩」を参照ください。

経膣分娩・帝王切開どちらにもメリット・デメリットがあり、どちらも分娩予定日までは待たず、早めにお産となります。

双子は医学的な管理上、主に2つに分けられます。

#### ① 二絨毛膜性双胎

胎児1人につきそれぞれ胎盤（お母さんと酸素や栄養のやり取りをする場）があります。

出産時期は37週となります。

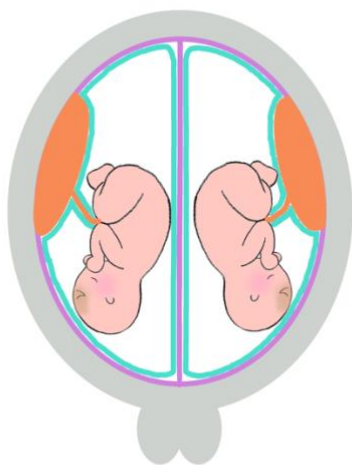
#### ② 一絨毛膜二羊膜性双胎

1つの胎盤を胎児2人で共有しています。

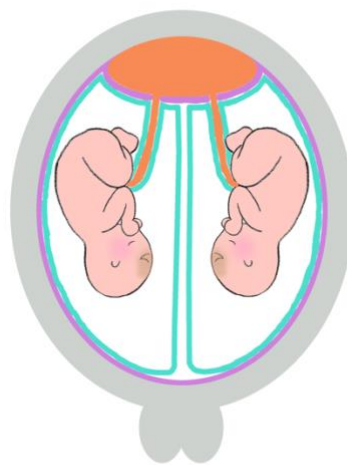
出産時期は36週となります。

\*他に、一絨毛膜一羊膜性双胎もあります。

二絨毛膜双胎



一絨毛膜二羊膜双胎



## ○合併症

双胎では単胎より様々な病気のリスクが高くなるため、慎重な経過観察が必要と判断した場合は入院管理となります。

### ・ 早産

2人のお子さんが1人のお母さんのおなかで育つため、早産のリスクが高いことがわかっています。36週以下での早産は約45-50%と言われています。

### ・ 妊娠高血圧症候群

単胎妊娠よりも妊娠高血圧症候群のリスクが高いことがわかっています。妊娠高血圧症候群は単胎妊娠では6.5%に対し、双胎妊娠では12.7%と言われています。30週をこえるとリスクが高くなるといわれています。妊娠高血圧症候群について詳しくは別紙参照ください。

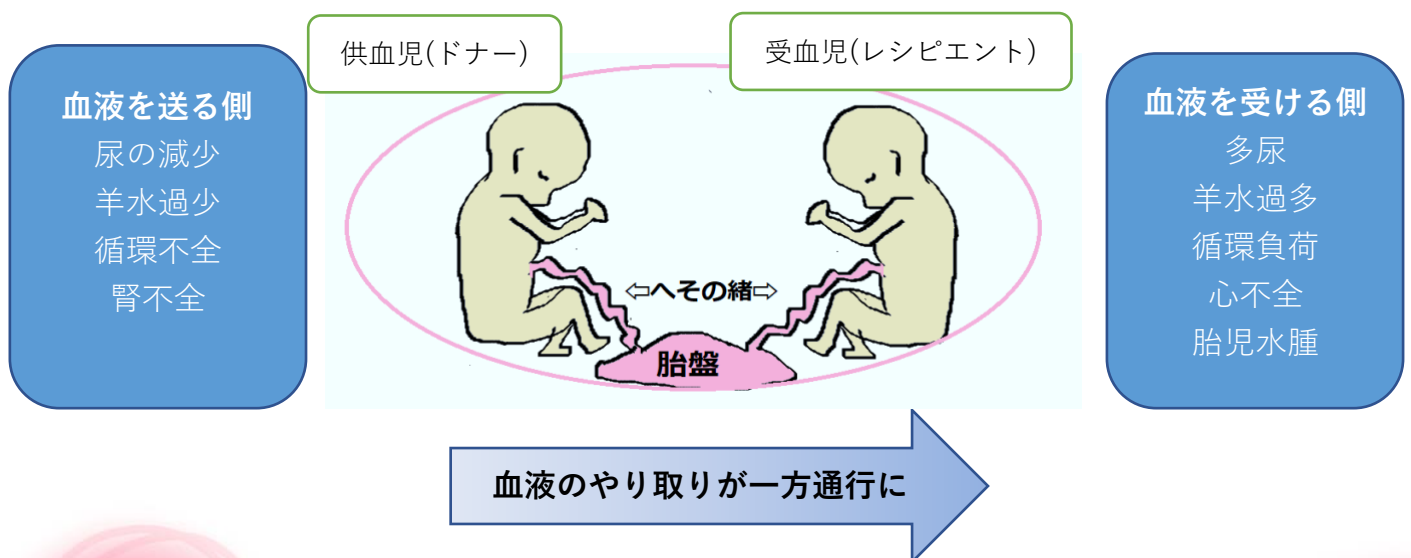
また上記に加え、一絨毛膜性双胎では特有の合併症があります。

### ・ 双胎間輸血症候群

胎盤を共有しているため、胎盤内で血管がつながっており、2人で血液のやり取りをしています。この血液のやり取りのバランスが崩れると片方の子がむくんだり、心不全になり、もう一方の子は発育が悪くなったり羊水が少なくなります。どちらのお子さんにとっても命に関わる状態であるため、一絨毛膜性双胎では健診は最低2週間に1回行い、超音波で慎重に体重や羊水量、血流などを見ていきます。もし上記の兆候が見られた場合は入院で慎重に管理をします。

双胎間輸血症候群は一絨毛膜双胎の約10-15%に起こる可能性があります。

それぞれの胎児に起こる症状には以下のようなものがあります。



このようなことが起こると、母体の症状として急におなかの張りが増える、おなかが急に大きくなる場合があります、注意が必要です。その際には早期に診察が必要ですので、遠慮なくご相談ください。

産後も二人の赤ちゃんを同時に育てていくためには周りのサポートが欠かせません。大変なことばかり、と心配になるかもしれませんが、よりよい双子の妊娠・出産を目指して我々もサポートさせていただきます。